



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

資料2

博物館がクラウドファンディングで実現した 「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」

海部 陽介

国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ長
「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」代表

- プロジェクトの概要
- クラウドファンディングの計画と実行
- 航海プロジェクトの事業体制
～オープンサイエンスの新しいかたち～
- 今後の計画

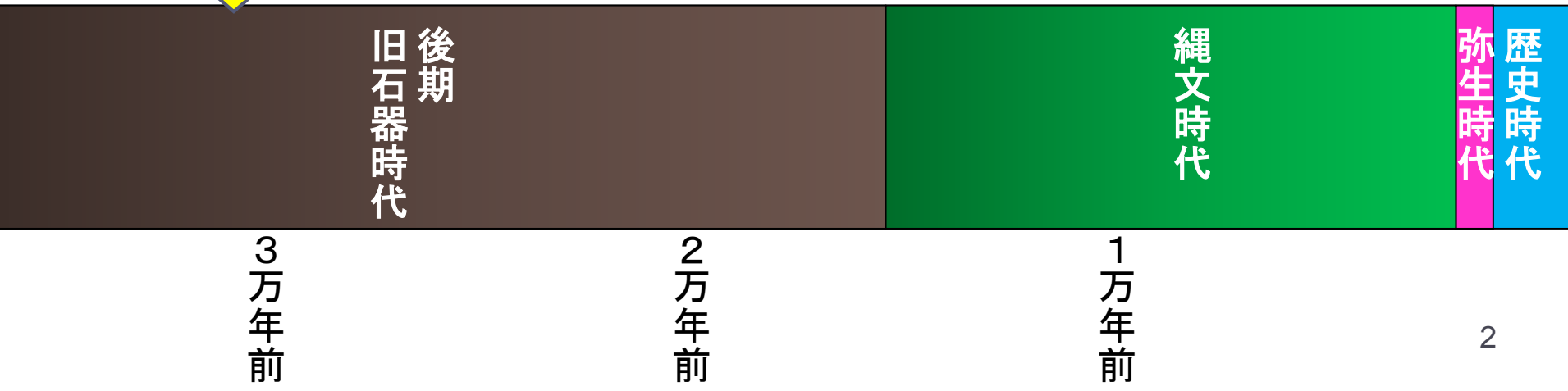
プロジェクト概要

最初の日本列島人は、3万年以上前に、大きな海を越えてこの土地へやってきたことがわかってきました。本プロジェクトは、当時の舟と航海術、海流や自然環境などを研究して解き明かしながら、実際に古代舟を作って実験航海を行い、3万年前の大航海を再現しようとするものです。遠い祖先たちの海への挑戦を、現代の私たちが実際に体感してみることによって、過小評価も過大評価もしない、彼らの本当の姿に迫ります。

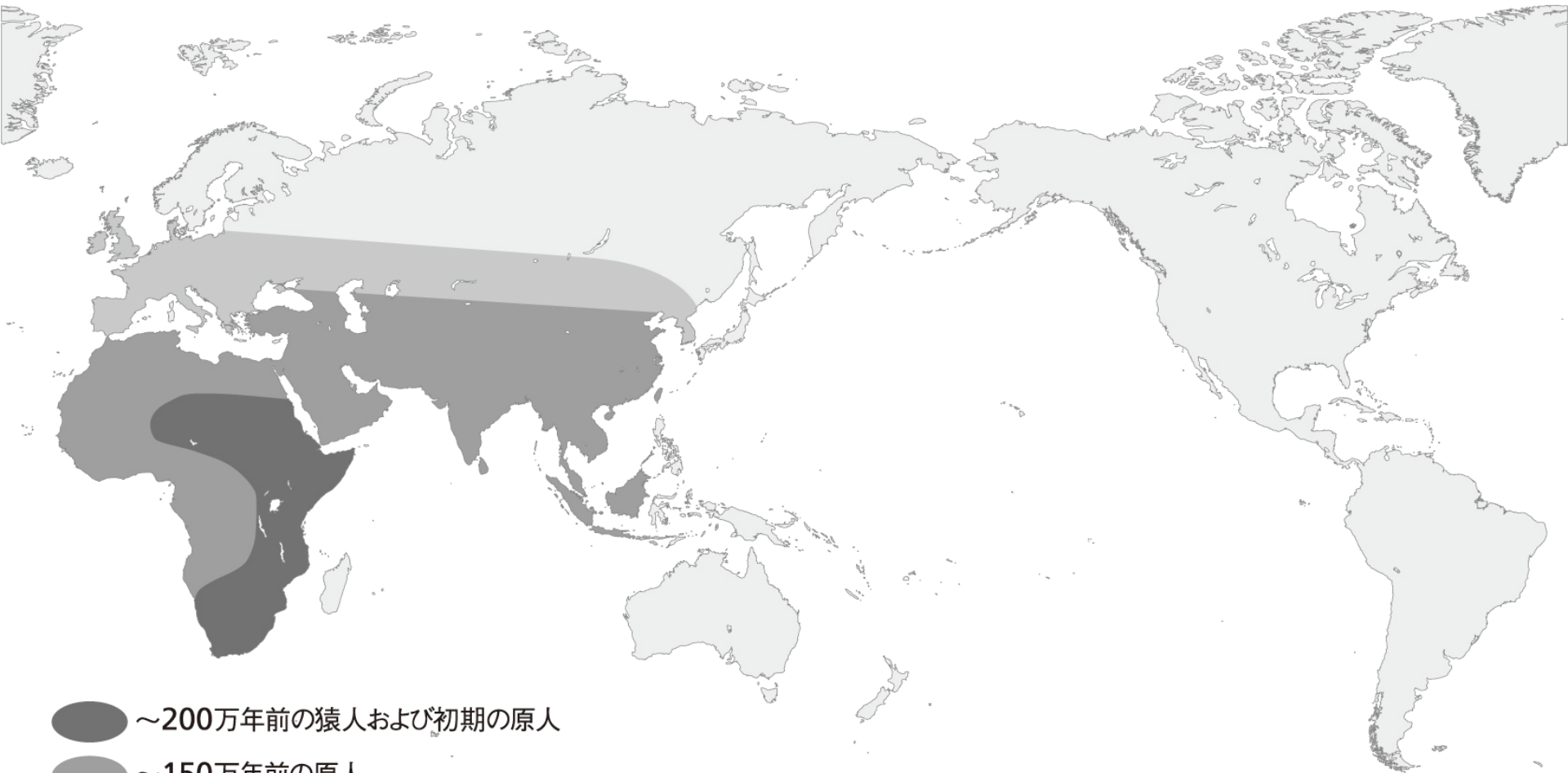
この時期に注目



日本列島の人類史年表



主役は、世界へ広がった ホモ・サピエンス



● ~200万年前の猿人および初期の原人

● ~150万年前の原人

● ~5万年前の旧人と原人

● ~現在まで

ホモ・サピエンス
が進出した領域

人類が地球全体に暮らす現在の状況は、5万年前以降にホモ・サピエンスがアフリカから世界へ大拡散したことによって生まれた。ホモ・サピエンスは、酷寒の地や海など、それ以前の人類が踏み込めなかった環境を突破できる「何か」を持っていた。
出典：海部陽介「人類がたどってきた道」NHKブックス 2005

4万～3万年前頃の地図

ホモ・サピエンスは、
4万年前以降に複数の
ルートをとって日本
列島へ渡ってきた

氷期であったこの当時、
海面は現在より約80m
低く、地図のグレーの
領域は陸化していたと
推定される



35000~30000年前頃、琉球列島のいくつかの島に突然人が現れた

現在の黒潮の流路

立切 35000 年前
横峰C 35000 年前

土浜ヤーヤ 30000 年前
喜子川 30000 年前

ガラ竿 >30000 年前

山下町第一洞穴 36500 年前?
サキタリ洞 35000 年前
港川 20000 年前

ピンザアブ 30000 年前?

白保竿根田原洞穴 27500 年前

八仙洞 30000 年前

日本列島への渡海は、当時の西太平洋海域で繰り広げられていたらしい、世界最古級の、人類の海への挑戦的一幕であったと考えられます。

その中でも琉球列島への渡海は、目標の島が小さく遠く、世界最大の海流の1つである黒潮が、当時も現在と同様に行く手を阻んでいた可能性が高いことから、極めて困難だったでしょう。

しかしそれがどれだけ困難で、成功するために何が必要かは、実際に舟をつかって航海してみないとわかりません。そのために始動したのが、国立科学博物館のこのプロジェクトです。

生物人類学・考古学・民俗学・古海洋学・数理生物学・植物学など、多彩な分野の大勢の研究者が協力して、過去の謎の解明に当たります。

さらに海を熟知している海洋探検家加わって、実験航海を実現する体制をつくりました。

詳しくは公式ホームページ・フェイスブック・インスタグラムをご覧ください。

3万年前の古代舟を復元して、実際に航海してみよう！

クラウドファンディングの計画と実行

国内最大のクラウドファンディングREADYFORは、誰もがやりたいことを実現できる世の中を創ります。



プロジェクトを探す



プロジェクトをはじめる



はじめての方へ



ログイン



新規登録

国立科学博物館新たな冒険！3万年前の航海 徹底再現プロジェクト



海部陽介（国立科学博物館 人類史研究グループ長）

支援総額 26,380,000円

 目標金額 20,000,000円

支援者数 875人

残り日数 終了しました

プロジェクトが成立しました！

このプロジェクトは
2016年4月12日(火)23:00 に成立しました。

2016年2～4月のクラウドファンディング最終結果

日本の国立の博物館として初の挑戦 !!

発案者：館長

強力な
リーダーシップ

開始当初
の話題づくりに効果的

相談しやすい人柄

タイプ：寄付型 or 購入型

大型案件なら
こちらが有効

博物館の
リソース多数
活用可能

プラットフォーム：民間運営会社 or 自前

ノウハウを持たない
我々にとって、手数料分
の価値が十分見込めると判断

2638万円
(最終結果)

2000万円
(目標額)

<倦怠期を迎えてテコ入れ>

- ・館内チラシくばり
- ・草東舟展示イベント
- ・著名人応援依頼
- ・大口支援者募集
- ・実演イベント+記者会見
- ・**館長会議招集**
- ・説明会(東京・沖縄)

16日 **400万円(初期目標)達成**

10日 関連書籍発売

9日 **記者会見 クラウド開始**

SNSで知人へ告知

・館内説明会 ↓組織結束のために不可欠

・後援・協力とりつけ

・ウェブサイト

・宣伝用動画 ↓とても効果的だった

・ポスター・チラシ作成

・リターンの考案

準備 ↓もっと早くからすべきだった(改善点)

12月

1月

2月

3月

4月

国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」
クラウドファンディング(2015~2016年)の経過

クラウドファンディングを成功させるために(体験からのメモ)

準備

- プロジェクトの魅力を洗い出し（よりの的確に訴えるため）
- アプローチできるコミュニティを増やす
- リターンの充実
- 運営会社の選択

広報

- 広報戦略・スケジュール（ニュースを出し続ける）
- メディアとのコミュニケーション（先方のニーズも理解する）
- プロジェクトを動かす人物の紹介
- SNSの活用
- 著名人の応援
- チラシ配り等の経験から人々の興味・関心の把握につながった

体制

- 組織の長の積極関与
- プロジェクトリーダーの熱意・行動力
- 組織の理解・結束（内部説明会、声かけ、ボランティア協力者）
- 民間事業経験者のアドバイス

ご支援ありがとうございます!!

国立科学博物館一同

職員全員の協力があったてつかめた成功

航海プロジェクトの事業体制 ～オープンサイエンスの新しいかたち～

大航海の謎を解くための研究

- ・研究者のチーム
(多数の関連研究を実施)

+

航海実験

- ・館内プロジェクト事務局
(研究者+事務職員)
- ・協力研究者・海洋探検家
- ・漕ぎ手
- ・撮影スタッフ (委託)
- ・安全管理 (部分委託)
- ・ボランティア

公的研究資金

科研費
運営費交付金等

民間資金

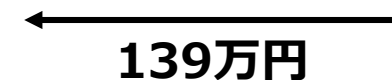
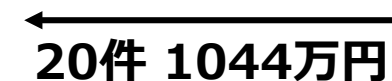
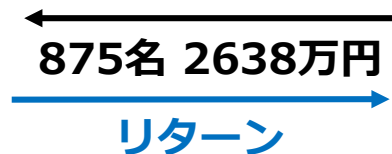
2016-2017年実績

クラウドファンディング
支援者

オフィシャルサポーター
企業

プロジェクト賛助会員
(寄付者・団体)

募金



情報公開のポリシー

情報は一般公開するが、成果を最初にお知らせするのはメディアでなく支援者

支援者（会員）限定のサービス

- メールニュース（月2回程度）
- 報告会等のイベント

一般向け情報公開

- 公式ウェブサイト、SNS
- 一般講演会
- 博物館展示
- 各種外部メディア

航海プロジェクトの特徴（面白さ）

～オープンサイエンスの新しいかたち～

研究者の謎解き体験を広く共有

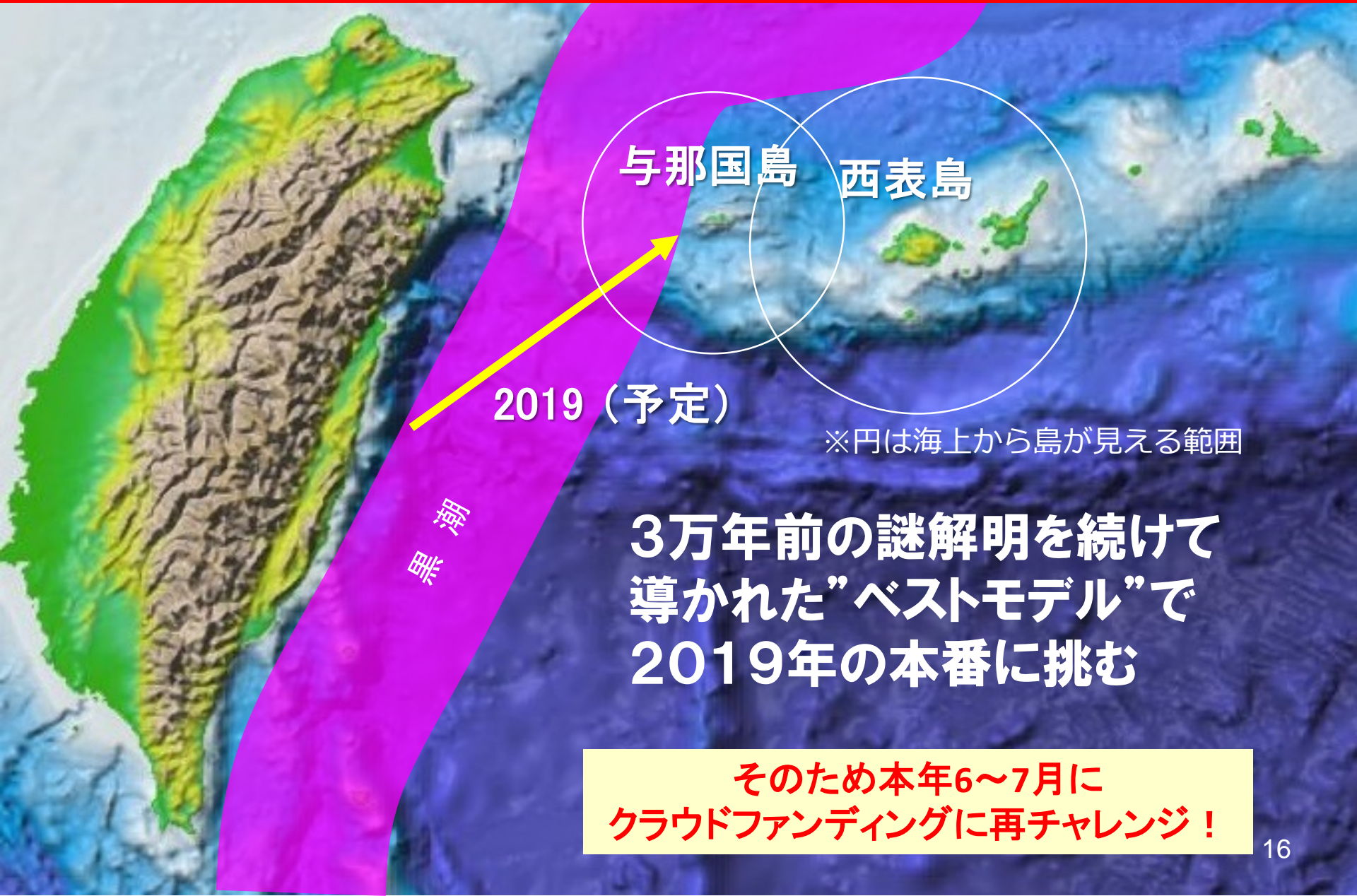
- 進行状況を（失敗も含めて）公開
- 抱えている課題・問題も公表
→ 皆が話題にできる

大勢が意見できるプロジェクト

- 支援者からの声を収集し運営に役立てる
- 一般からの声も聞く
→ 新しい情報・アイディアの吸収
→ 批判に耳を傾けて研究に反映
→ 発信した情報がどれほど理解されているかモニタリング

クラウドファンディングと親和的！

今後の計画



与那国島 西表島

2019 (予定)

※円は海上から島が見える範囲

3万年前の謎解明を続けて
導かれた”ベストモデル”で
2019年の本番に挑む

そのため本年6~7月に
クラウドファンディングに再チャレンジ!